

作文データから考える初級の文法指導

接続詞・接続表現を中心に

リュブリャーナ大学 (スロヴェニア) 加藤紀子
(noris@d3.dion.ne.jp)

1. 目的

学習者の作文を添削する過程では、学習者が既習の文法項目をどのように理解し使えるようになってきているのかいろいろな情報を得ることができる。指導上の参考のために初級後半学習者の作文データを収集し、ここでは接続詞・接続表現を取り上げて考察した。

2. 資料について

リュブリャーナ大学日本語講座の現代日本語Iで初級後半(1月から6月にかけて)の期間に提出された宿題ならびに定期試験で書かれた作文を使用した。毎回宿題を提出する学生のデータと試験のみしかデータの無い学生といるので、質的な偏りは避けられないが、全部で30人、のべ113本の作文を分析対象となった。作文の課題は以下にあげるとおりで、基本的には身近な話題やできごとについて書いたものである。

「たからもの」(1月宿題) 3本	「楽しい一日」(4月宿題) 7本
「クリスマス(冬休み)」(1月試験) 28本	「イースター」(4月宿題) 4本
「もしお金がたくさんあったら…」(2月宿題) 4本	「私の夢」(5月宿題) 6本
「わたしの部屋」(3月宿題) 11本	「日本語の勉強」(5月試験) 19本
「いつかぜひきてください」(3月宿題) 6本	「私の家族」(6月試験) 3本
「私の部屋」(3月試験) 22本	30人分、のべ113本

3. データ観察

全体的な印象としては、使用される接続詞・接続表現の種類や頻度、また正しく使えるかどうかは、学習者の総合的な実力とほぼ比例していた。能力の高い学生は多様な表現を適切かつ十分に使用しており、教科書や授業では深く教えられる項目も、モデル作文や宿題の添削を通して学んで活用できることがうかがわれた。しかし、説明・練習の不足による誤用や、思いがけない用例も散見された。

今回はこの中から接続表現・接続詞を集めて以下のように分類し、使用の頻度や誤用の程度などをまとめた。

I. 句読法

II. 接続詞: それから(6, 11)、そして(8)、それに(28)、それで(28)、そのうえ(43)、
でも(12)、ですから(17)、たとえば(27)、また(42)

III. 接続表現: ~て(継起・並列・理由)(16, 39)、~てから(16)、(~た)あとで(34)、
(~る)前に(18)、~ながら(28)
~とき(23)、~と(23)、~たら(25)、~ても(25)、~ば(35)、~なら(35)、
~のに(39)、~のに(45)
~たり~たり(19)、~し(28)
~です/ますが(8)、~です/ますから(9)

(教科書は『新日本語の基礎I』、『みんなの日本語初級II』に準拠しておりそれぞれの文法項目の後のかっこ内の数字は新出する課を示す)

なお、引用例文(楷書体)中の誤りについては原文のまま訂正を加えずに用いた。

3.1 句読法

欧文ではコンマ・ピリオド以外の句読記号も用いられているが、今回のデータ中で欧文の句読法の影響があきらかなのは、コロンをを用いたもの一つのみ(1)で、日本語が「,」「。」のみであることは理解されているといえる。

(1) プレゼントをたくさんあげたりもらったりしました。人ぎょうやおかしや本をあげました。

また、句読点の不用例が散見される(2-4)が、これは特定の学習者の癖であると判断された。

(2) 日本人友達に手紙をもらいましたぜんぶわかりましたととてもうれしかったです。

(3) クリスマスふゆやすみはとてもおもしろかったでもちょっとみじかかったです。

(4) わたしは本が大好きそれで本棚の上にたくさんおもしろい本がならべてあります。

一方、句点のかわりに読点が用いられている例がかなり広く見られた。(5-18)

(5) ふゆ休み私は家にいました、それからクロアチアへ行きました。 →いました。それから

(6) 古いですから、エレベータがありません、でもアパートにのぼることは体にいいです。

→ありません。でも

(7) 31日にあそこはあまりさむくなりました、ですからほうしをかぶりました。

→さむくなりましたから、

(8) 月曜日にもひまでした、それで新聞を読んで、日本語を勉強しました。 →ひまだったので

(9) ベッドはかべのまえにあります、それにちかくに大きいまどがあります。 →あって、

(10) サファリへ行きました、そしてぞうとさるが見られました。

→行ったら (/行きました。そこで)、

(11) およぐあとで、うちへ行きました、パーティーをじゅんびしました。 →行って、

(12) 夕方は家へ帰った、すこしテレビを見たり、日本語の宿題をしたりしました。

→帰って (から)、

(13) はれただった、ずいぶんあつかったです。 →はれて (/はれたので)、

(14) それからクリスマスのうたをききました、テレビをみました。

→きいたり、テレビをみたりしました。

(15) きょうかいはまちのなかにあります、ひとがおおかったです。 →ありますから、

(16) つくえの上にラジカセがあります、テレビがありません。

→ありますが、テレビはありません。

(17) てんきがいいです、ウルシウラ山が見えます。 →いいときには (/よければ)、

(18) 母に新しく赤い車です、父に小さいふねです、妹にコンピュータをあげられます。

→母に新しく赤い車、父に小さいふね、妹にコンピュータを…

文頭にあるべき接続詞の前に読点があつたり、接続詞・接続表現がなく単文が読点で並んでいたりする。句点と読点の混同とは考えにくいですが、後期半年間を通じて散見され、特に多用が目立つ学習者もいるが、学習者の四割が一度は使っていた。複文化がうまく行かない際に読点でとりあえず区切って続けているのではないかと考えられる。接続に困ったときの表現手段としてはこれまで「て形」の多用が指摘されているが、このデータからは「困ったときの手段としての読点」の存在が推測される。

3.2 接続詞(使用数と誤用例)

問題のある用例は全体の14%(31/226例)程度で、逆接「でも」や例示「たとえば」などの誤用はない。そ系のものの中での混同(26/131例=約20%)が多いようである。

それから(50例) →誤用(5例…それに、そして、でも、など)、句読法上の用法(3例) →(5)

(19) わたしはたくさんプレゼントをもらいました。それから小さいカメラをもらいました。

(20) 今年もリュブリャーナでのこりました。それから、父と母は海へ行きました。

(21) かん字がたくさんあります。それから私はかんじの勉強が好きではありません。

そして (27例) → 誤用 (2例…ですから/それで、それから)、句読法上の用法 (1例) → (10)

(22) クリスマスに天気はたいへんあたたかかったです。そしてスキーをすることができませんでした。

でも (62例) → 意味的な誤用はなし。句読法上の用法 (4例) → (3) (6)

ですから (14例) → 誤用なし

それで (36例) → 誤用 (2例…そして/それから、それに)、句読法上の用法 (6例) → (4)

(23) かべにカレンダーがかけています。それで、ドアにかぞくの写真がはっています。

(24) ピアノをひくし、いいダンスができるし、それでとてもきれいです。

それに (15例) → 誤用 (4例…それで、そして)

(25) このりょ行はとても楽しいです。それにまだいつかに行きたいと思いました。

そのうえ (3例) → 誤用 (3例…それに、そして)

(26) ですから、たのしみにして、来年日本語の勉強します。そのうえ、日本語の本を読んで、アニメを分かって、すごい日本語を話したいです。

また (7例) → 誤用なし / たとえば (12例) → 意味的な誤用はなし。句読法上の用法 (1例)

不使用 (計数不能であるが、接続詞を補ったほうがよいと思われる例を挙げる)

(27) 私はははとスロベニアよりをたべました。__フィーンをのみました。

(28) まどの下につくえがあります。__ラジオがあります。

「それに」「それで」は同一課内で導入されるため、教室でも見分けたり使ったりする練習を十分行ったが、それでも誤用がある。「それに」は「それで」との混同が多いが、「それで」の場合は使い方に問題がある例が多い。「また」「たとえば」は教科書では読み物でふれられる程度で文法項目にはなく、作文課題の中で提示されたただけなので、課題提出した学生のみ十分練習したうえで使いこなしていた。

3.3 接続表現

3.3.1 て形の主な誤用

これまでの作文を扱った研究報告においては、初級学習者が接続に困ったときにて形を乱用しがちである(樋口1996)ことや、原因・理由のて形が難しい(吉田1994)ことなどが指摘されている。今回のデータでは、「困ったときの乱用」は予想したほど多くはなく、先に見た不自然な句読法ほどではなかった。活用の間違い(34、ほかに9、11、12)のような基本的な誤用が目立った。

(29) はじめはやさしくて、今はもう難しいです。 → ~のに、~ですが (逆接の誤用)

(30) わるい天気があって、雨が聞こえます。 → 天気が悪いときには (条件接続の誤用)

(31) 先月私の母は日本の料理の本買って、食べ物はとてもおいしそうです。

→ 買ってきましたが (前置きの誤用)

(32) ですから、たのしみにしていて、来年日本語の勉強します。

→ 来年日本語の勉強をするのを楽しみにしています (構文上の誤用)

(33) 私は日本人と話して、日本へりょこうして、日本のぶんがを教えます。

→ 話したり、旅行したりして (並列の誤用)

(34) 私の部屋はちいさいときれいな部屋です。 → ちいさくて (形容詞の活用の誤用)

3.3.2 状況・原因・理由の「～て」の使用例と「ので」「から」の誤用

吉田(1994)の指摘する原因・理由などをあらわす「～て」については(35)-(44), (46)のように期待以上に使いこなしている例も多かったが、舌足らずな利用もやはり少なくなかった(45), (47)-(52)。

- (35) でも友達にほめられて、うれしかったです。
(36) おじとおばがプレゼントを多くくれて、うれしかったです。
(37) 日本語少わかるようになって、楽しいです。
(38) それを聞いて、うれしかったです。
(39) ロンドンは高くて、ズボンが一つしか買えませんでした、(後略)
(40) 私はとても忙しくて、がっしょたいにもう歌えません。
(41) それがとても気に入って、それを勉強することにしました。
(42) ことばがありすぎて、なかなか覚えられませんでした。
(43) おもしろくて、日本語を勉強したかったです。 →勉強したくなりました
(44) 春にたくさん花がさいて、庭はきれいです。
(45) いろいろな花がたくさんさいて、ただちに写真をとりました。 →咲いていたので
(46) 今たくさんしけんがあって、たいへんです。
(47) 日本のぶんかにきょうみがあって、日本人のせいかつはおもしろいです。 →あるので
(48) 私はAnastasiaのサウンドトラックがあって、かのしよの声がすぐにわかりました。
→(を)もっているの
(49) いいと言^てって、私はまたメンバーになりました。 →言われたので
(50) でも先生は私がよくできたと言^てって、安心とうれしくなりました。 →言^つ(てくれ)たので、
(51) あの日、スロベニアへ帰って、ちょっとかなしかったです。 →帰るので
(52) 問題はかんたではなくて、たくさん勉強しなければなりません。 →かんたんではないので

原因・理由の「て形」は初級後半になって新しく加わる用法であるが、吉田(1994)も指摘するように前文後文の論理的つながりが難しい。教科書やモデル作文で目にする使い方はうまく利用しているが、応用しようとして失敗(応用しすぎ)する人が多いようである。

3.3.3 「～て」と「～てから」「(～た)あとで」、「～ても」と「～のに」

「～て」と「～てから」「(～た)あとで」、また「～ても」と「～のに」はそれぞれ混同される誤用が少なくなかった。これらは文法説明や練習をより充実することで減らすことの期待できる誤用であると考えられる。

「～てから」(10例) →誤用(2例…「～て」)

- (53) ともだちにあつてから、はなしました。

「(～た)あとで」(18例)

→誤用(「～て(から)」6例、「～てから/たら」2例、接続活用間違い3例)

- (54) 朝早く起きたあとで、大きい朝ごはんを食べました。 →起きて
(55) それで一年のあとでまたがっしょたいやめました。 →一年して(から)
(56) そつぎょうのあとで、大学院で勉強したくて、(後略) →そつぎょうしたら

「～ても」(2例) 両例とも不自然(「～が、」が自然)

- (57) 27日に雨がふってもスキーに行きました。
(58) 雨がふっても、行きました。

「～のに」(7例)「～が(逆接)」の誤用(2例)

(59) 勉強の上に仕事もしているので、むずかしいのに、いっしょけんめい勉強しています。

3.3.4 並列(～て～て、～たり～たり、～し～し)の誤用や不使用

「～たり～たり」構文は、導入直後の試験のときには誤用はほとんどなかった(1-2月は23例中、構文に関わるものが1例と活用間違いが3例)が、その後ほかの文法要素と組み合わせて使うようになって誤用が増えた(4-5月は24例中、構文に関わるものが10例、活用間違いが2例)。特に「[～たり～たり]する」という構文の誤用(66)は全体では71例中16文あり、構文が複雑になるにつれて増える傾向にあった。一方、「～し～し」は使用者に偏りがあり、25例の異なり人数は10人(1/3)であった。

(60) 私は毎日四時間かたかなとひらがなを練習したり、勉強したりしなければなりませんでした。

(61) それはロンドンでたくさん遊んだり、おいしい料理を食べたりしたからです。

(62) わたしの部屋にしゅくだいをして、勉強して、本を読んでいます。

→…したり勉強したり本を読んだりしています。

(63) 漢字が少し書ける、読めるようになりました。 →書いたり読んだりできる

(64) 外国語の勉強は人と話せる、会えるに便利だと思います。 →話したり会ったりするのに

(65) 私は部屋でおんがくを聞きながら、本を読む、勉強します。 →読んだり勉強したりします

(66) 私はへやでいつも音楽を聞いたり、べんきょうをしています。 →したりしています

(67) 私は日本語を書けたり、読めたりなりたいです。 →書いたり読んだりできるように

(68) ツルジッチまでわたしはねたり、12時に家へ帰りました。 →ねながら(?)

(69) たくさん歩くし、おなかがすくし、食べに行きました。 →…歩いたし、…すいたし、

(70) そつぎょうのあとで、大学院で勉強したくて、

大きいアジアの若い人の団体で働きたいです。 →[勉強して、…働]きたいです。

4. まとめと今後の課題

接続詞・接続表現は初級前半で導入される項目に比べ、後半の新出項目の定着がむずかしく、すでに定着した知識と比較しながら用法を詳説する余地がまだあると考えられる。初級学習者の作文では、これまでに<困ったときの「て形」だのみ>が知られているが、本報告ではデータにおける句読点の使用法から<困ったときの「、」使用>も多いことを指摘した。これは作文の中だけではなく、口頭でも接続表現に困った場面で上昇イントネーション、短いポーズでの単文の連続が同様の逃げ道となっているのではないかと推測される。

今回の分析では接続詞・接続表現の使用、誤用例はみることができたが、文章全体の構成をとらえるマクロな視点も取り入れて、不使用例などについても今後じゅうぶんに掘り下げて考える必要がある。さらに、インプットと定着の関連、学習者の誤用回避のストラテジーなどの視点から論考を深めることも今後の課題である。

参考文献

倉品さやか(2000)「日本語学習者の接続表現～日本語学習者の作文を資料に～」学科内勉強会資料

富田隆行(1991)『基礎表現50とその教え方』凡人社

樋口裕子(1996)「初級後半からの作文指導のために」『日本語教育』91

南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店

吉田妙子(1994)「台湾人学習者における「て」形接続の誤用例分析

-「原因・理由」の用法の誤用を焦点として-」『日本語教育』84